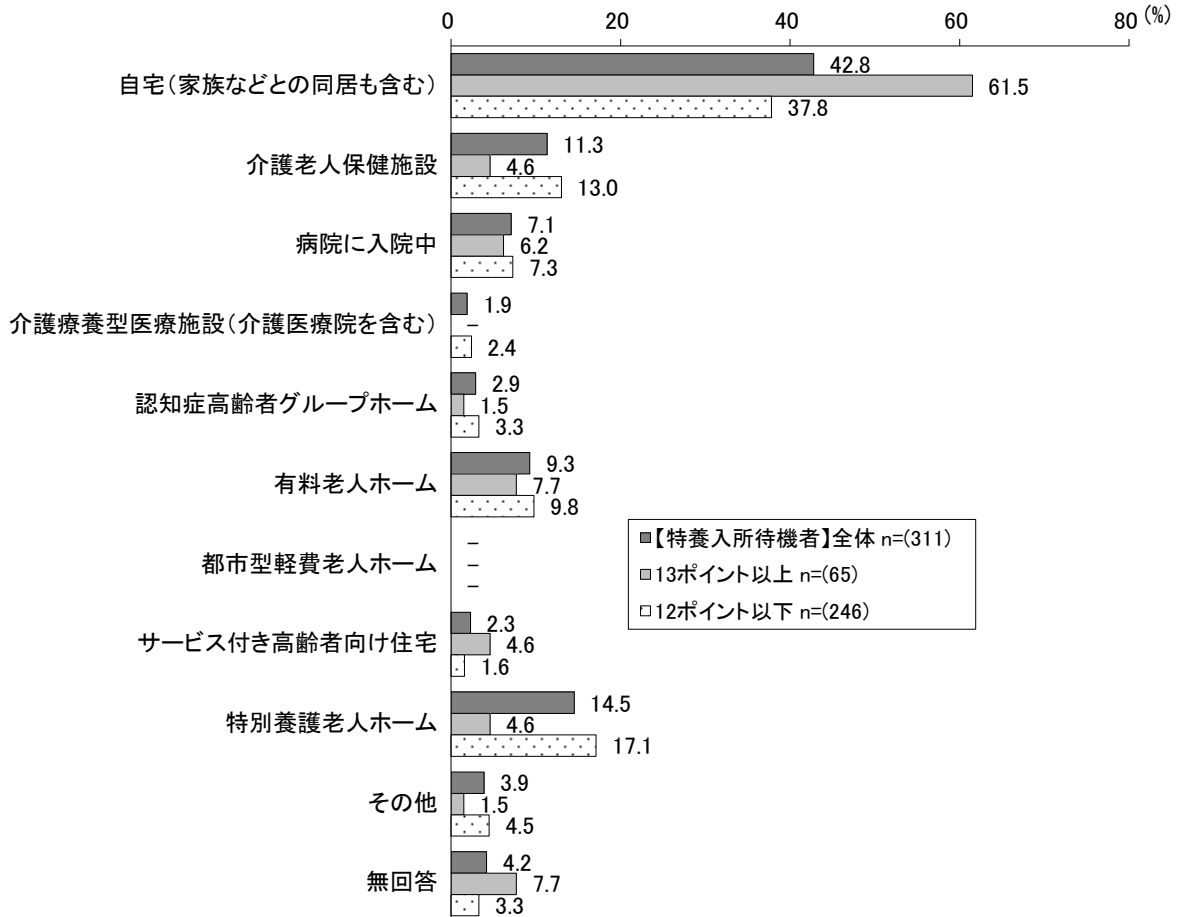


11. 特別養護老人ホーム入所申込みの状況

(1) 現在の生活場所

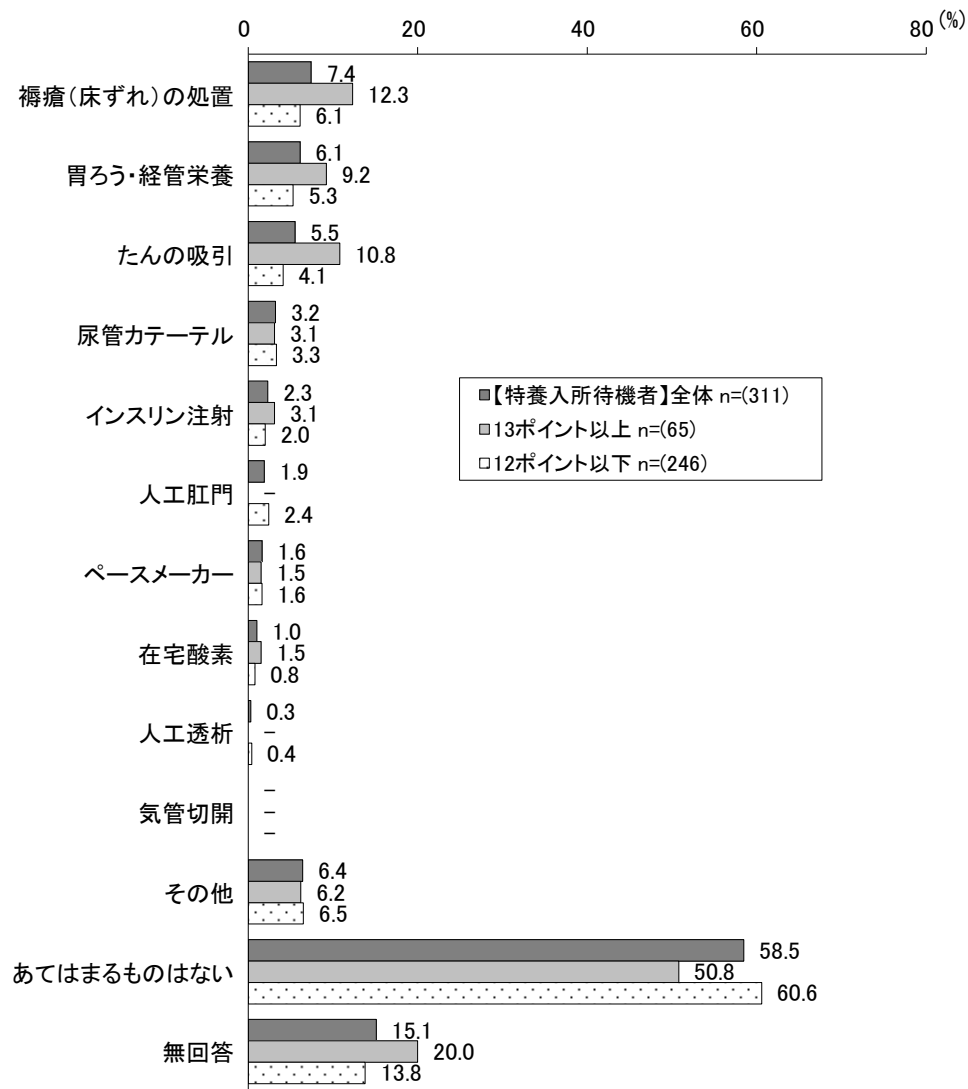
○「自宅（家族などとの同居も含む）」（42.8%）が最も高く、次いで「特別養護老人ホーム」（14.5%）、「介護老人保健施設」（11.3%）、「有料老人ホーム」（9.3%）の順となっている。



(2) 医療処置の状況

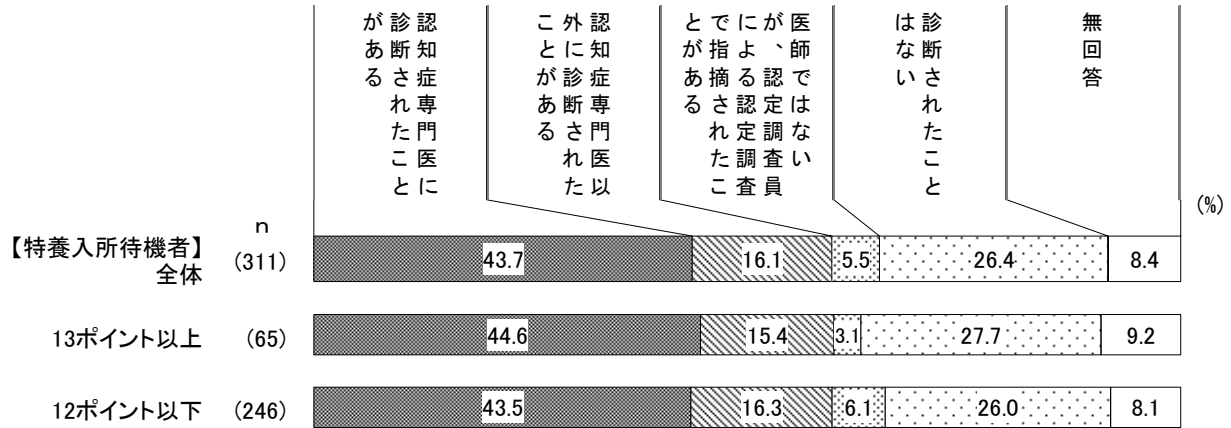
- 「あてはまるものはない」が最も高く、58.5%となっている。
- “何らかの処置を受けている”（「あてはまるものはない」と無回答を除く）は2割半ばとなっている。
- 医療器具の利用や医療処置の内容は、「褥瘡（床ずれ）の処置」（7.4%）、「胃ろう・経管栄養」（6.1%）、「たんの吸引」（5.5%）、「尿管カテーテル」（3.2%）が上位に挙がっている。

(複数回答)



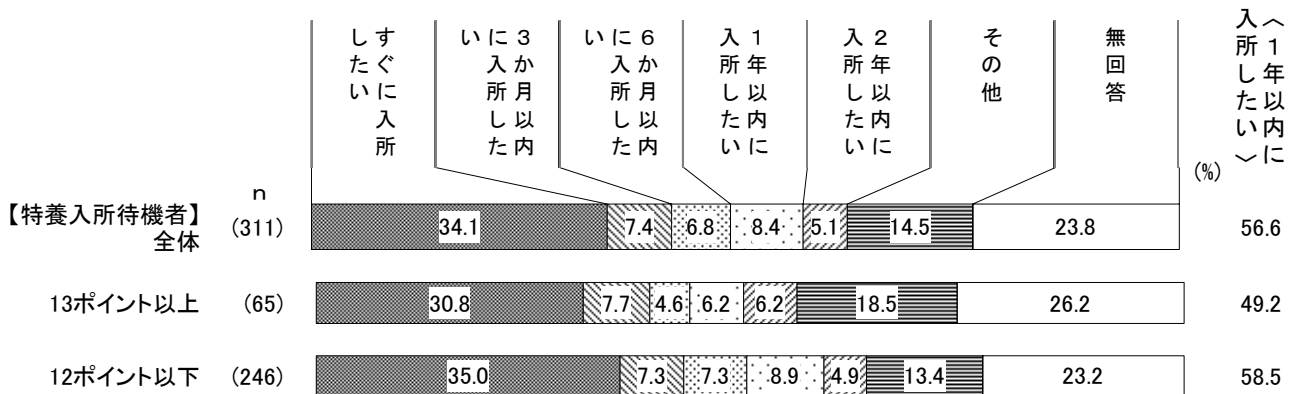
(3) 認知症の診断状況

- 「認知症専門医に診断されたことがある」が43.7%、「認知症専門医以外に診断されたことがある」が16.1%、「医師ではないが、認定調査員による認定調査で指摘されたことがある」が5.5%、「診断されたことはない」が26.4%となっている。



(4) 入所の希望時期

- 「すぐに入所したい」が34.1%で最も高くなっている。
 ○“1年以内に入所したい”（「すぐに入所したい」、「3か月以内に入所したい」、「6か月以内に入所したい」、「1年以内に入所したい」の合計）が56.6%となっている。



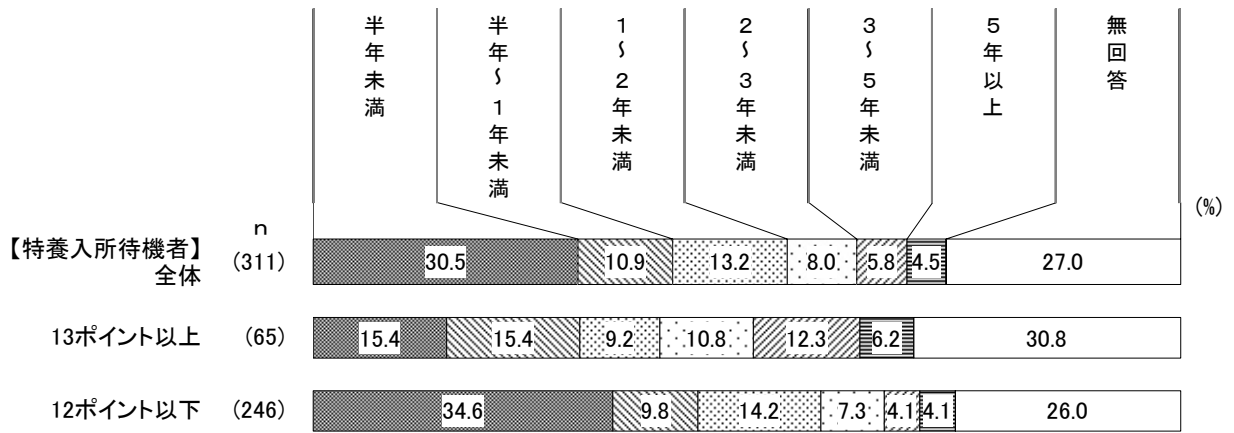
[経年比較 / 特養入所待機者全体]

- 令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、「すぐに入所したい」が5.4ポイント低くなっている。

| | n | 入所すぐしたい (%) | 3か月以内 (%) | 6か月以内 (%) | 1年以内 (%) | 2年以内 (%) | その他 (%) | 無回答 (%) | 入所し1年以内 (%) |
|-------|-----|-------------|-----------|-----------|----------|----------|---------|---------|-------------|
| 令和4年度 | 311 | 34.1 | 7.4 | 6.8 | 8.4 | 5.1 | 14.5 | 23.8 | 56.6 |
| 令和元年度 | 559 | 39.5 | 9.7 | 5.2 | 7.2 | 5.0 | 15.2 | 18.2 | 61.6 |

(5) 特別養護老人ホームの最初の申込みからの経過期間

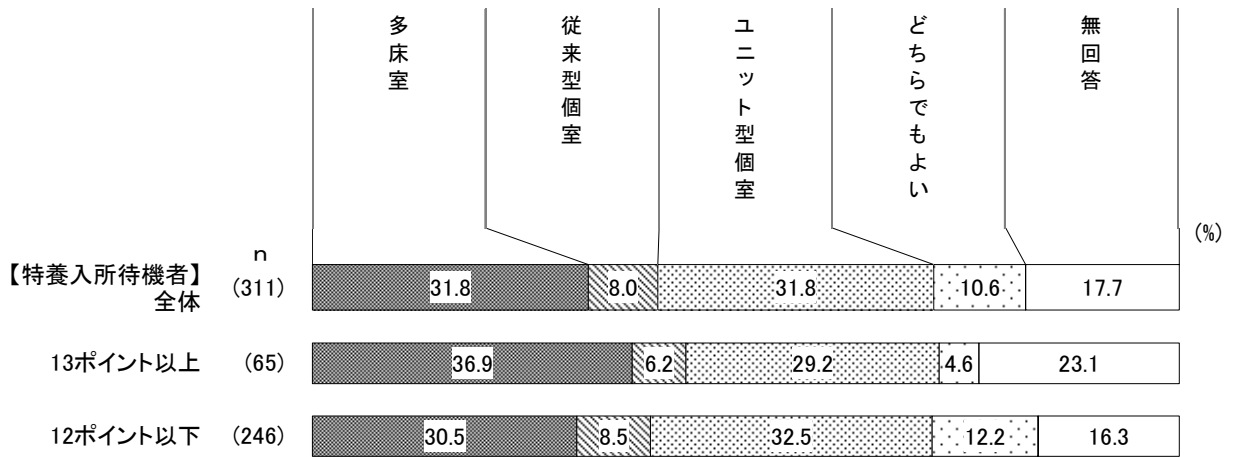
○最初の特別養護老人ホームへの入所申込みからの経過期間は、“1年未満”（「半年未満」と「半年～1年未満」の合計）が4割超となっている。



(6) 入所したい特別養護老人ホームのタイプ

①入所したい特別養護老人ホームのタイプ

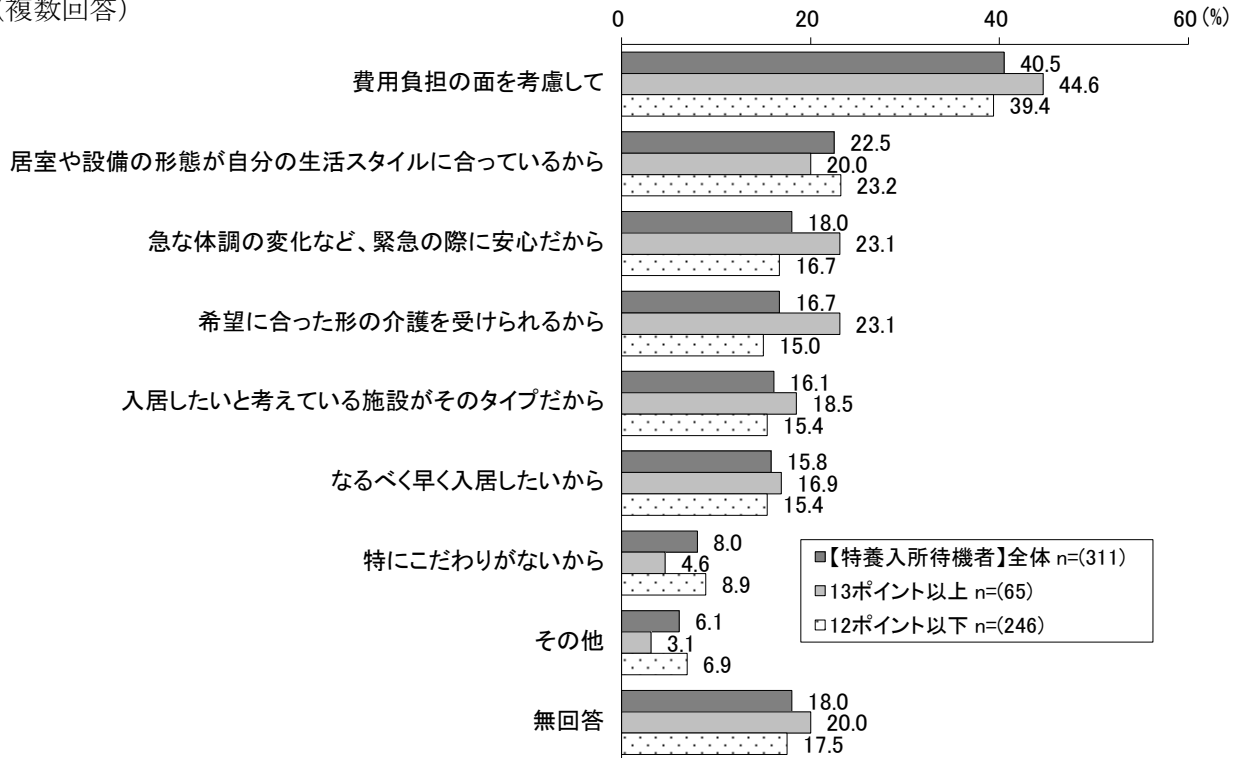
○「多床室」と「ユニット型個室」がともに31.8%で最も高くなっている。



②入所したい特別養護老人ホームのタイプの理由

- 「費用負担の面を考慮して」(40.5%)が最も高く、次いで「居室や設備の形態が自分の生活スタイルに合っているから」(22.5%)、「急な体調の変化など、緊急の際に安心だから」(18.0%)の順となっている。

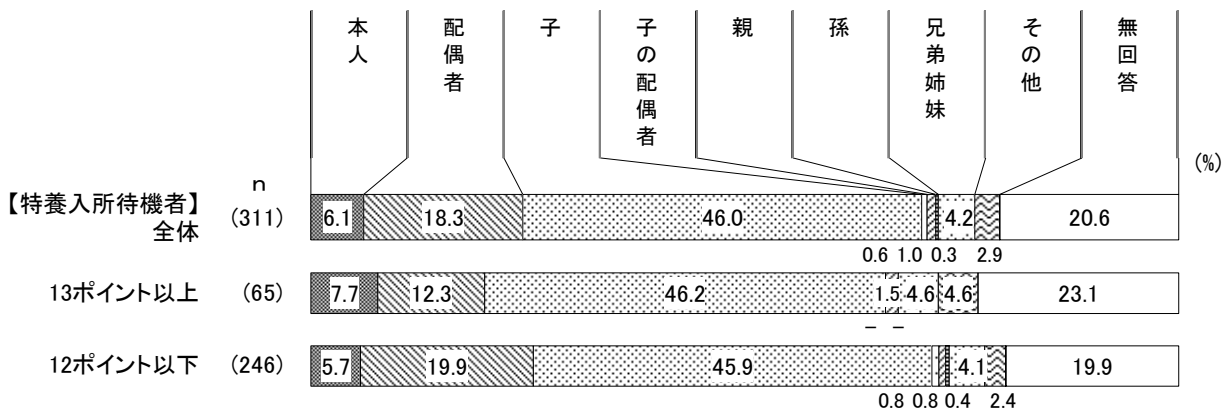
(複数回答)



(7) 特別養護老人ホームの申込み状況

①申込みを決定した人

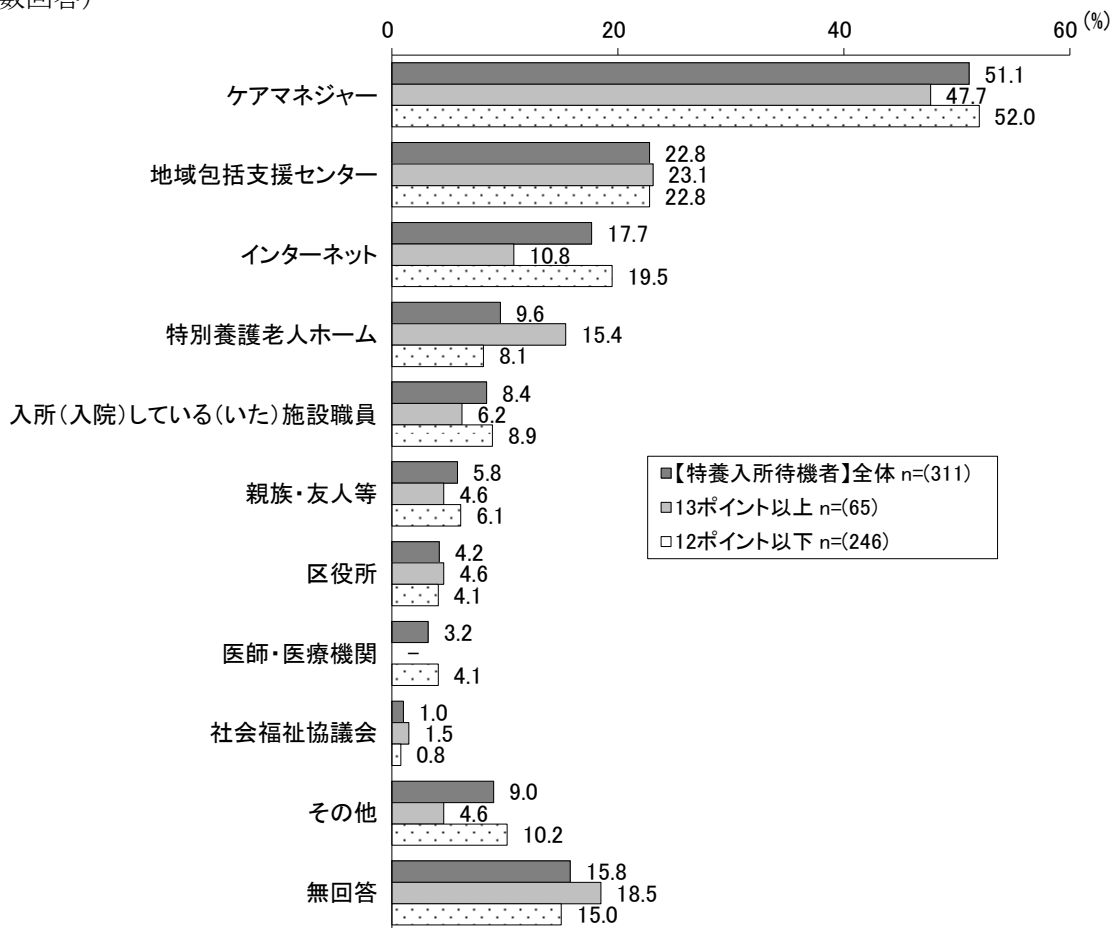
- 「子」(46.0%)が最も高く、次いで「配偶者」(18.3%)、「本人」(6.1%)の順となっている。



②入所申込みをした特別養護老人ホームの情報の入手経路

○「ケアマネジャー」(51.1%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター」(22.8%)、「インターネット」(17.7%)の順となっている。

(複数回答)



③入所申込みをした特別養護老人ホームを選択した理由

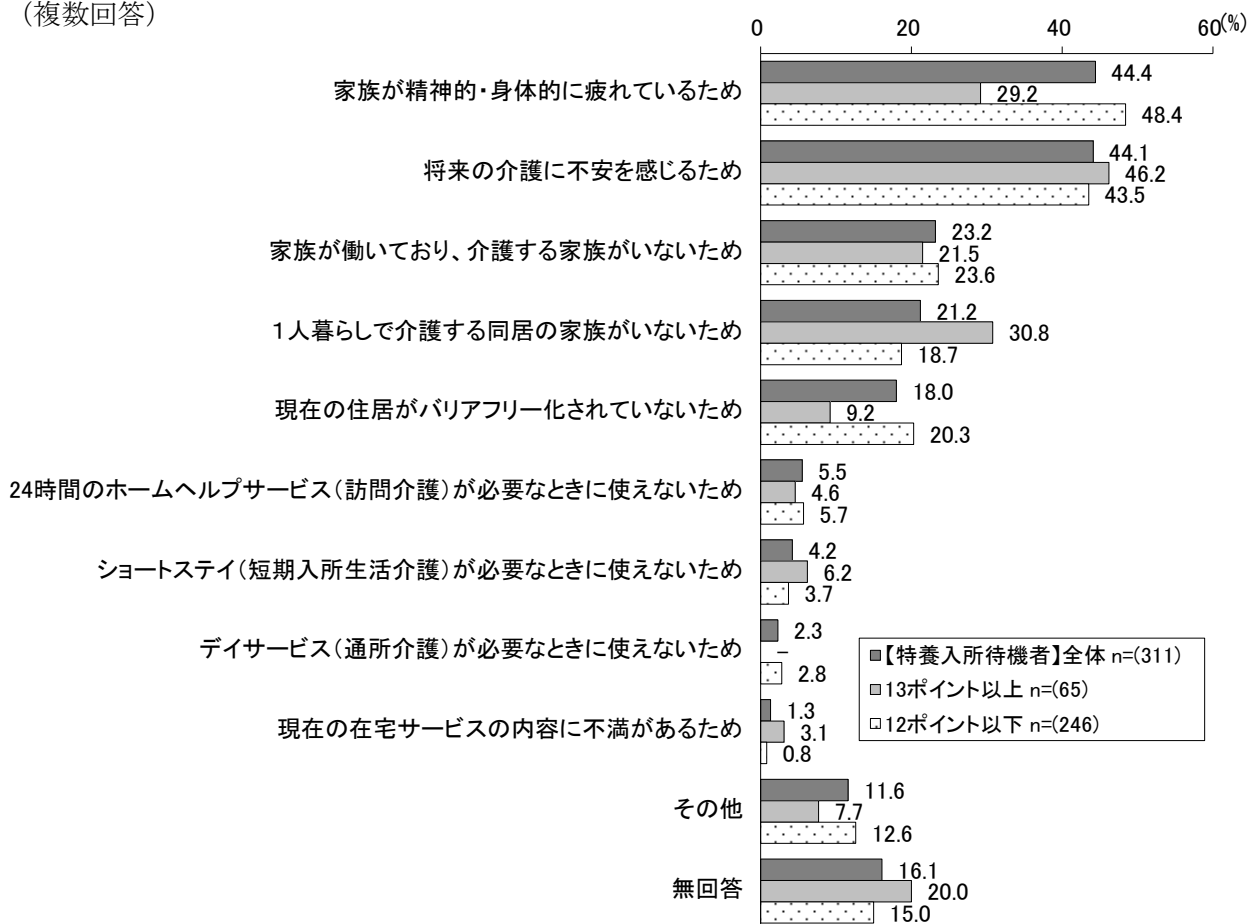
- 「自宅から近い」(59.5%)が最も高く、次いで「家族が面会に来る際に交通が便利」(40.2%)、「居室タイプ(多床室、ユニット型等)が希望と合っている」(27.0%)の順となっている。



④特別養護老人ホームを申し込んだ理由

○「家族が精神的・身体的に疲れているため」(44.4%)が最も高く、次いで「将来の介護に不安を感じるため」(44.1%)、「家族が働いており、介護する家族がいないため」(23.2%)、「1人暮らしで介護する同居の家族がいないため」(21.2%)の順となっている。

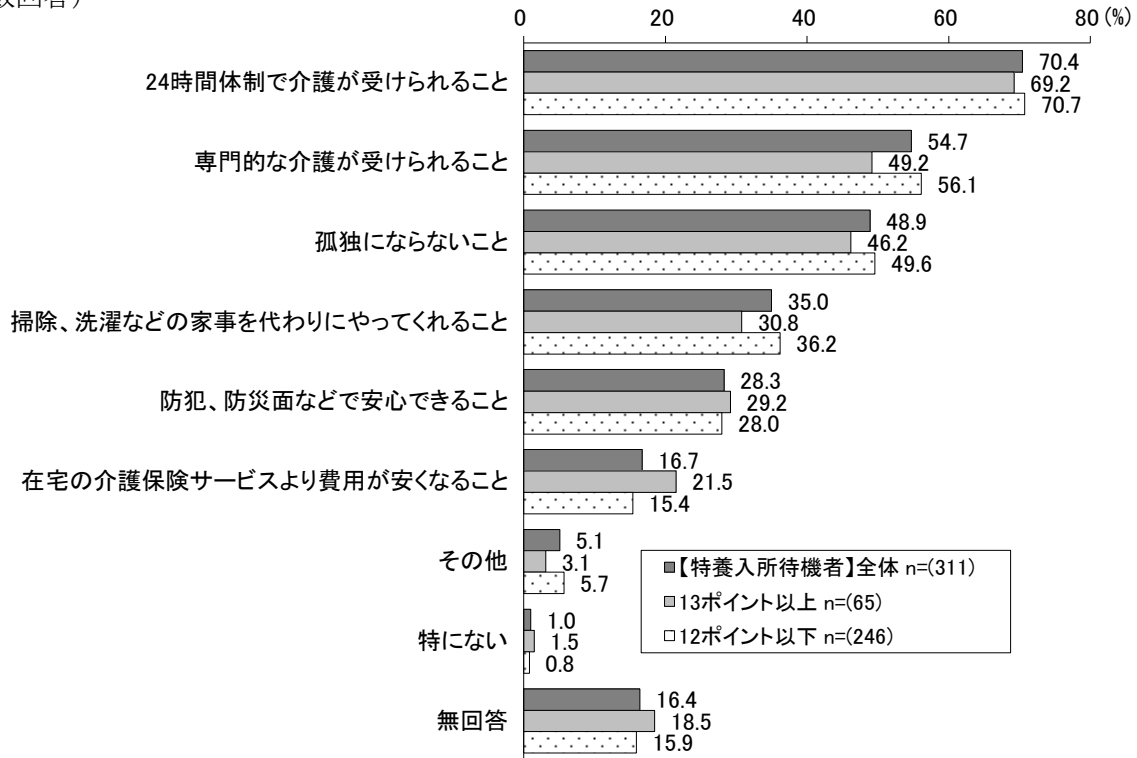
(複数回答)



⑤特別養護老人ホームに期待すること

- 「24時間体制で介護が受けられること」(70.4%)が最も高く、次いで「専門的な介護が受けられること」(54.7%)、「孤独にならないこと」(48.9%)、「掃除、洗濯などの家事を代わりにやってくれること」(35.0%)の順となっている。

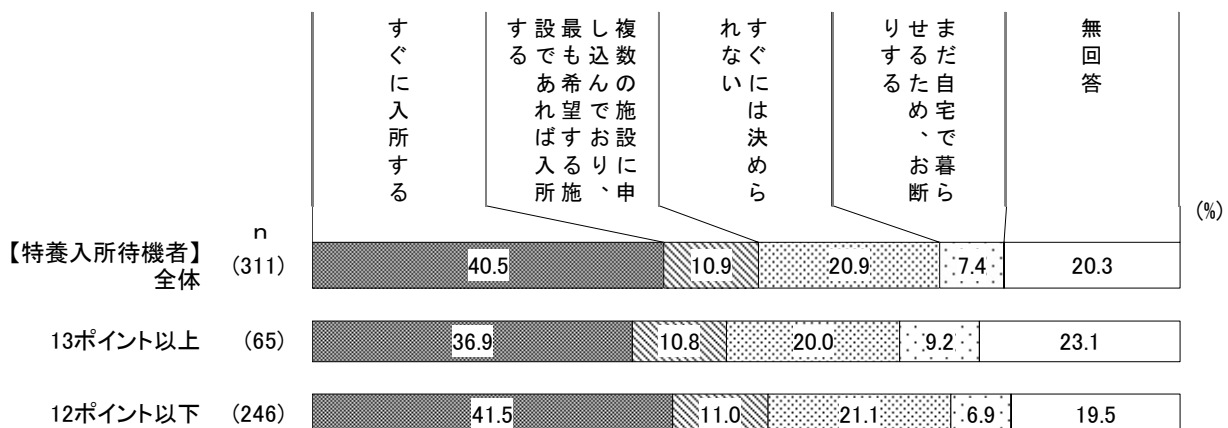
(複数回答)



(8) 申し込んでいる特別養護老人ホームから連絡がきた場合の対応

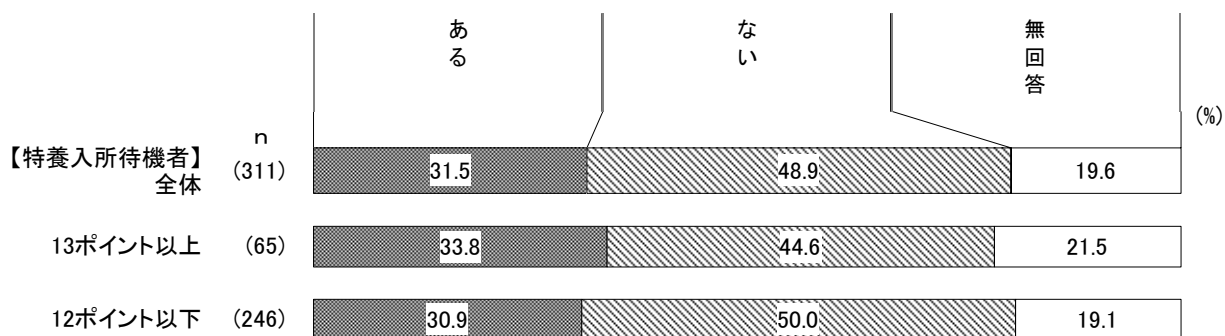
①連絡がきた場合の対応

- 申し込んでいる特別養護老人ホームから「入所できます」と連絡がきた場合の対応は、「すぐに入所する」(40.5%)が最も高くなっている。
- “すぐに入所しない”（「すぐには決められない」と「まだ自宅で暮らせるため、お断りする」の合計）は3割近くとなっている。



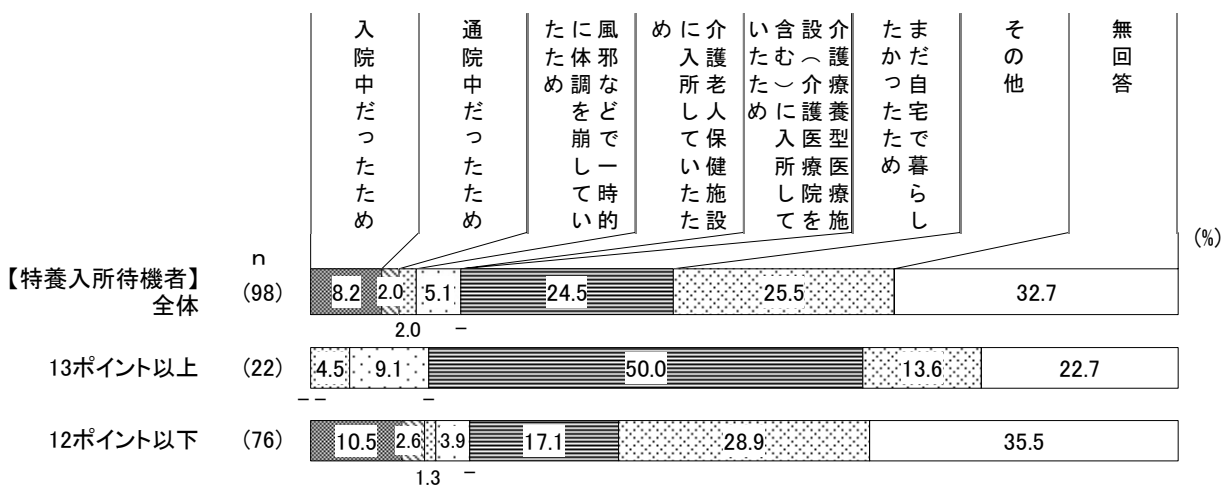
②入所案内の連絡を辞退した経験

○申し込んでいる特別養護老人ホームから「入所できます」と連絡があった際に断った経験は、「ある」が31.5%、「ない」が48.9%となっている。



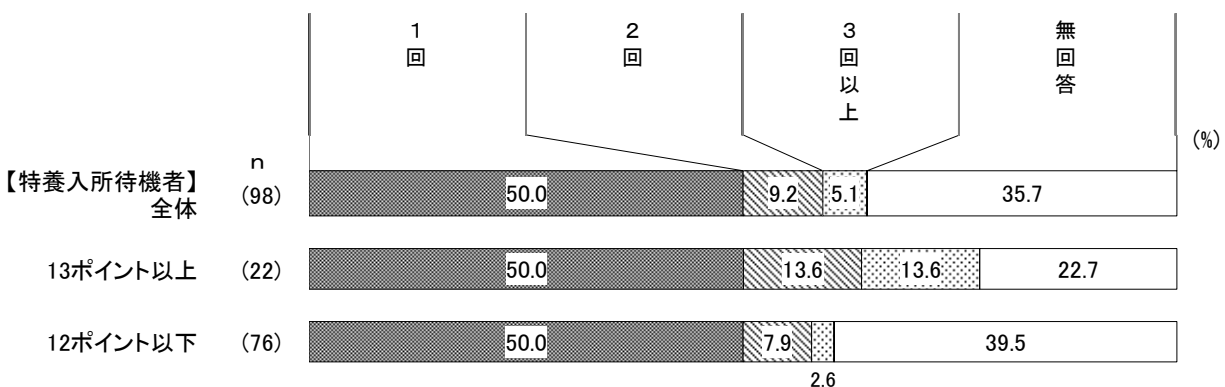
③辞退した理由

○入所辞退の経験が「ある」と回答した人の辞退理由は、「まだ自宅で暮らしたかったため」が24.5%、「入院中だったため」が8.2%、「介護老人保健施設に入所していたため」が5.1%となっている。



④辞退した回数

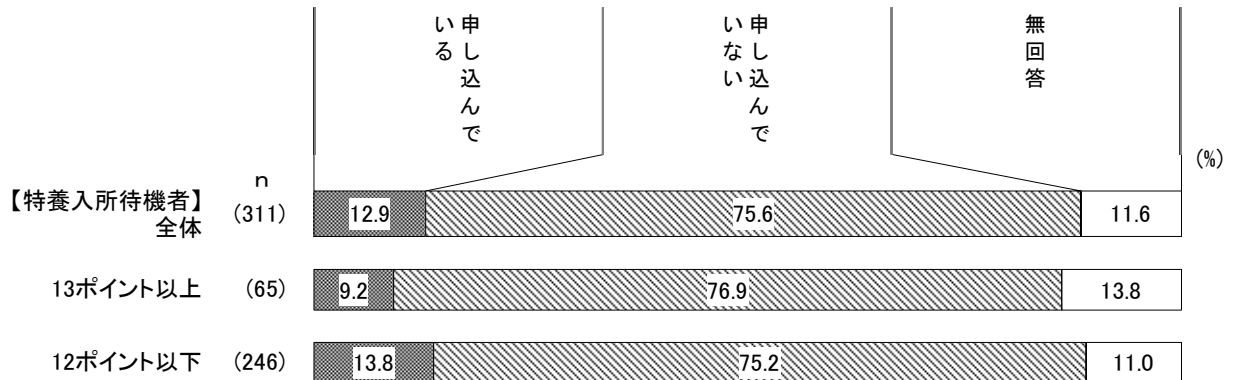
○入所辞退の経験が「ある」と回答した人の入所辞退の回数は、「1回」が50.0%、「2回」が9.2%となっている。



(9) 区外の特別養護老人ホームの入所申込み状況

①区外の特別養護老人ホームの入所申込みの状況

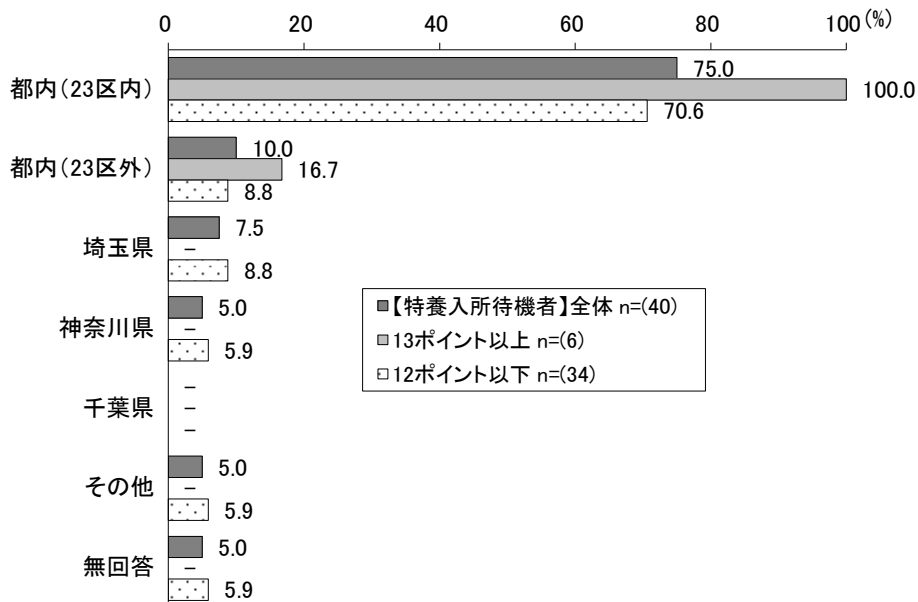
○「申し込んでいる」は12.9%、「申し込んでいない」は75.6%となっている。



②申し込んでいる特別養護老人ホームの場所

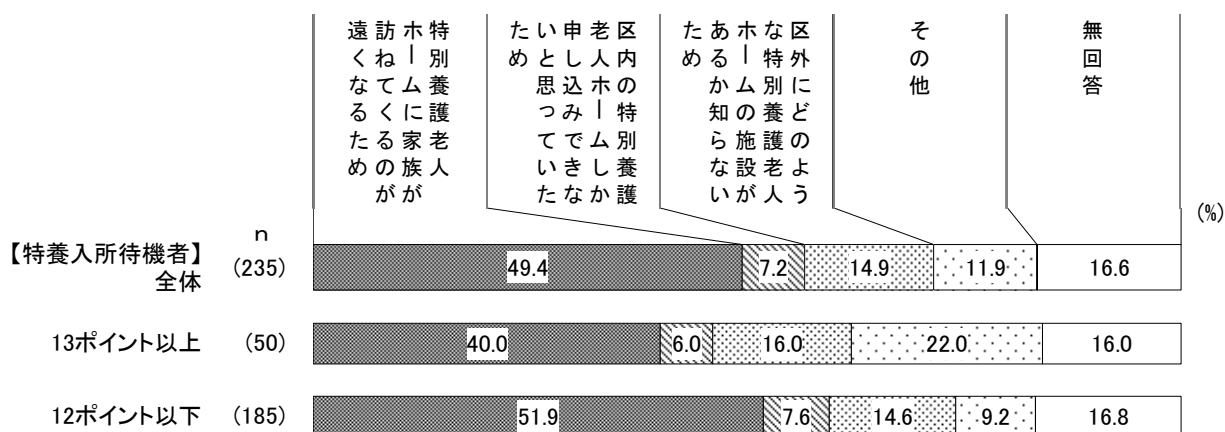
○区外の特別養護老人ホームに入所を「申し込んでいる」と回答した人の入所を申し込んでいる特別養護老人ホームの場所は、「都内（23区内）」（75.0%）が最も高く、次いで「都内（23区外）」（10.0%）、「埼玉県」（7.5%）の順となっている。

(複数回答)



③区外の特別養護老人ホームに申し込まない理由

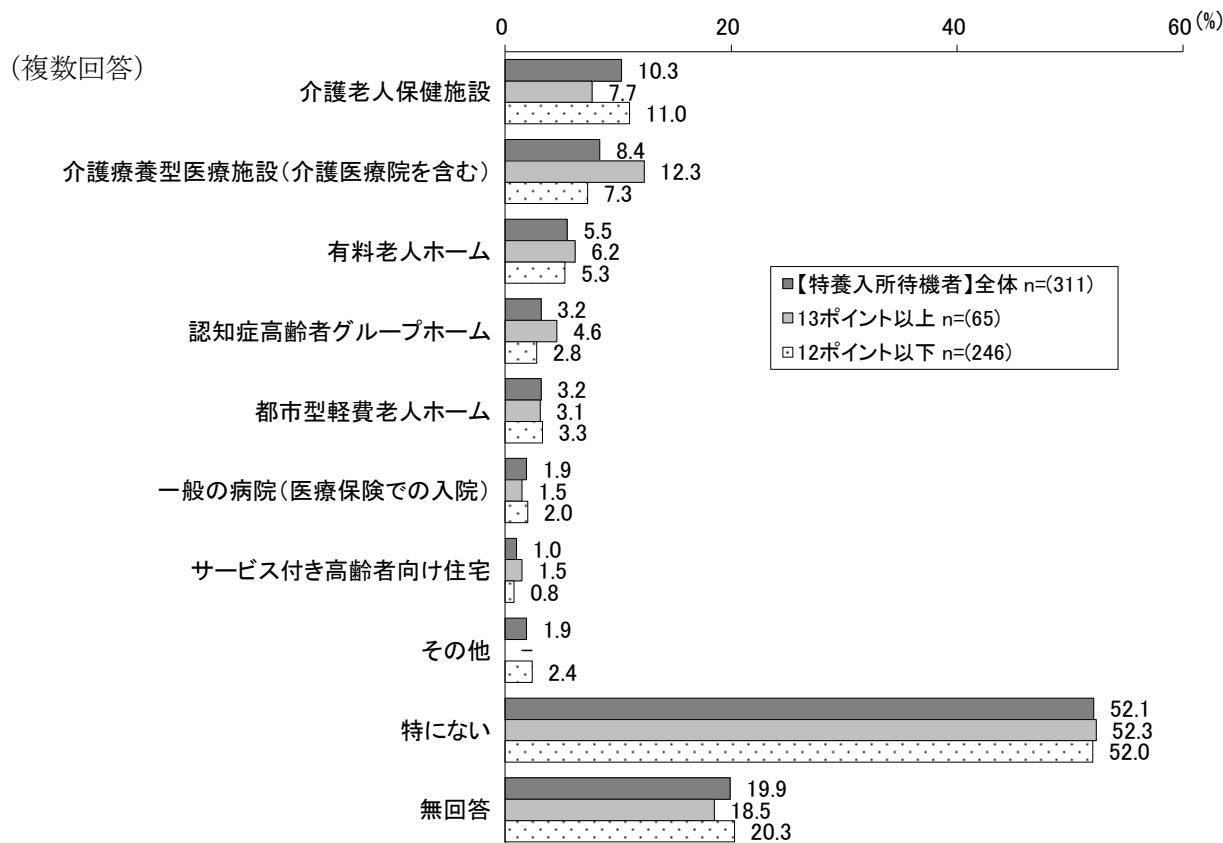
○区外の特別養護老人ホームに入所を「申し込んでいない」と回答した人の申し込まない理由は、「特別養護老人ホームに家族が訪ねてくるのが遠くなるため」(49.4%)が最も高くなっている。「区外にどのような特別養護老人ホームの施設があるか知らないため」は14.9%となっている。



(10) 特別養護老人ホーム以外の入所申込みの状況

①特別養護老人ホーム以外の入所申込みの状況

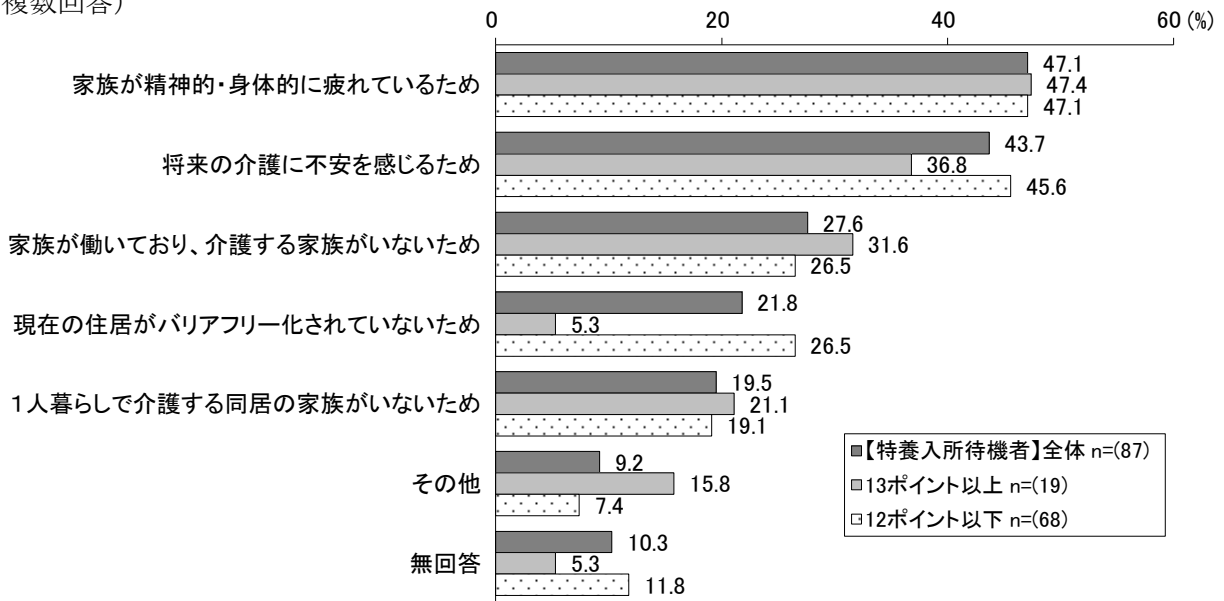
○「特にない」(52.1%)が最も高くなっている。申込み先としては、「介護老人保健施設」が10.3%、「介護療養型医療施設(介護医療院を含む)」が8.4%、「有料老人ホーム」が5.5%となっている。



②特別養護老人ホーム以外の施設等を利用したい理由

- “特別養護老人ホーム以外に申込みをしている施設、もしくは、利用を検討している施設がある”と回答した人の特別養護老人ホーム以外の施設を利用したい理由は、「家族が精神的・身体的に疲れているため」(47.1%)が最も高く、次いで「将来の介護に不安を感じるため」(43.7%)、「家族が働いており、介護する家族がいないため」(27.6%)の順となっている。

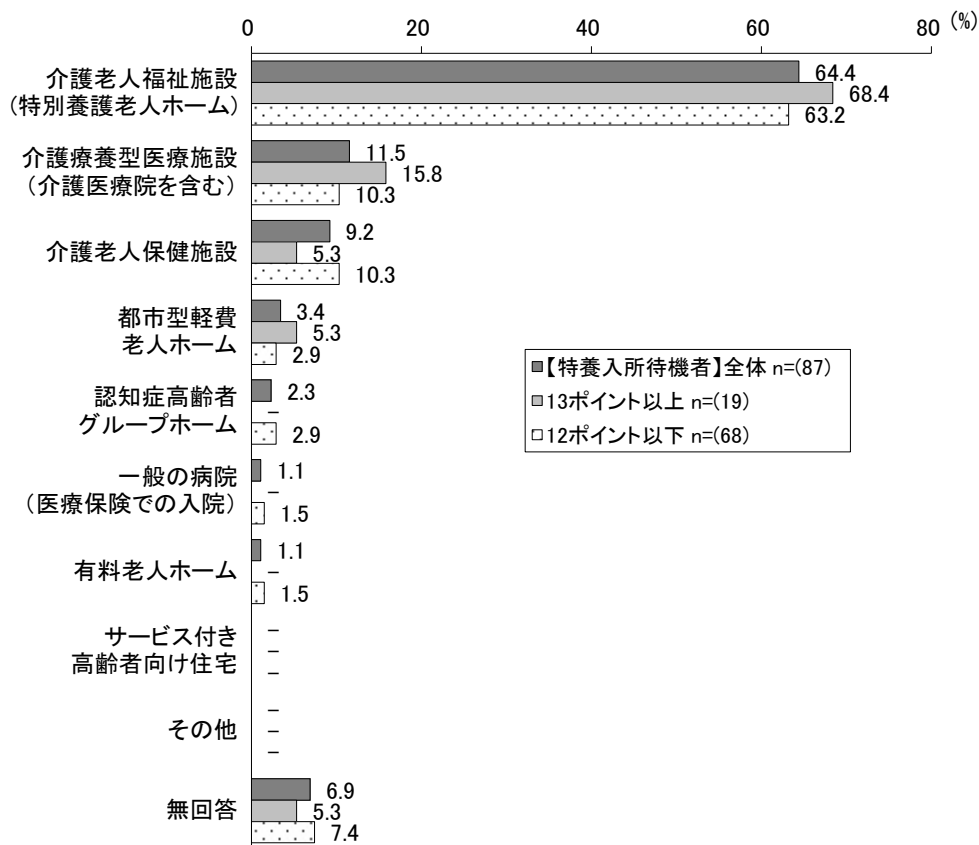
(複数回答)



③入所したい施設の優先順位

○ “特別養護老人ホーム以外に申込みをしている施設、もしくは、利用を検討している施設がある”と回答した人に、入所したい施設の優先順位を聞いたところ、第1位としての回答は、「特別養護老人ホーム」(64.4%)が最も高く、次いで「介護療養型医療施設(介護医療院を含む)」(11.5%)、「介護老人保健施設」(9.2%)の順となっている。

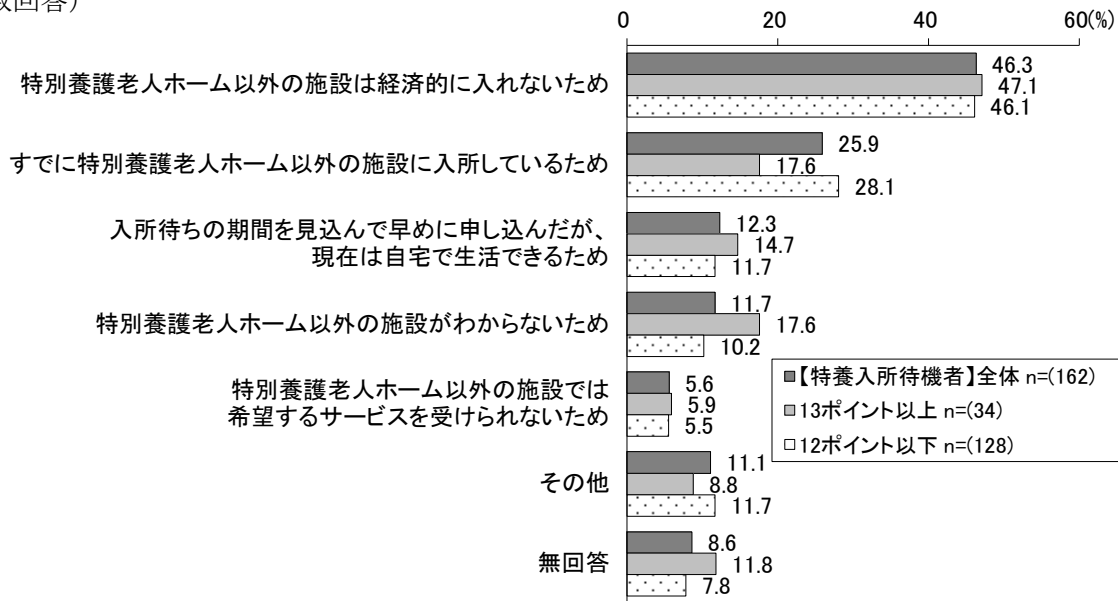
(第1位)



④特別養護老人ホーム以外に申込みをしていない理由

○特別養護老人ホーム以外の入所申込みの状況で「特にない」と回答した人の特別養護老人ホーム以外に申込みをしていない理由は、「特別養護老人ホーム以外の施設は経済的に入れないため」(46.3%)が最も高く、次いで「すでに特別養護老人ホーム以外の施設に入所しているため」(25.9%)、「入所待ちの期間を見込んで早めに申し込んだが、現在は自宅で生活できるため」(12.3%)の順となっている。

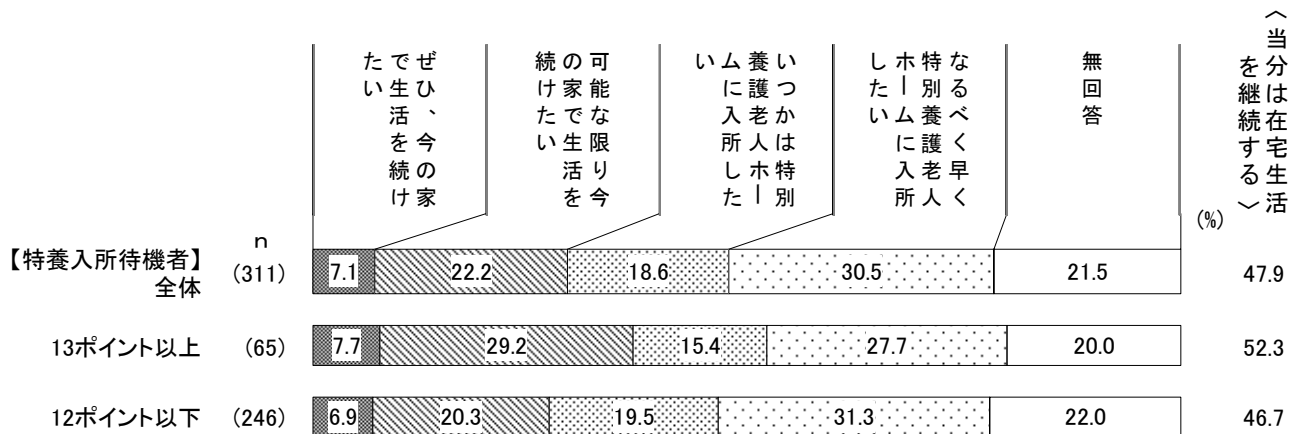
(複数回答)



(11) サービス等の充実による在宅生活の継続希望

①在宅生活の継続希望

○希望する在宅サービスの提供や制度の充実が見込めるのであれば、自宅での生活を希望するかどうか聞いたところ、“当分は在宅生活を継続する”（「ぜひ、今の家で生活を続けたい」、「可能な限り今の家で生活を続けたい」、「いつかは特別養護老人ホームに入所したい」の合計）と回答した人は47.9%で、「なるべく早く特別養護老人ホームに入所したい」（30.5%）を上回っている。



[経年比較 / 特養入所待機者]

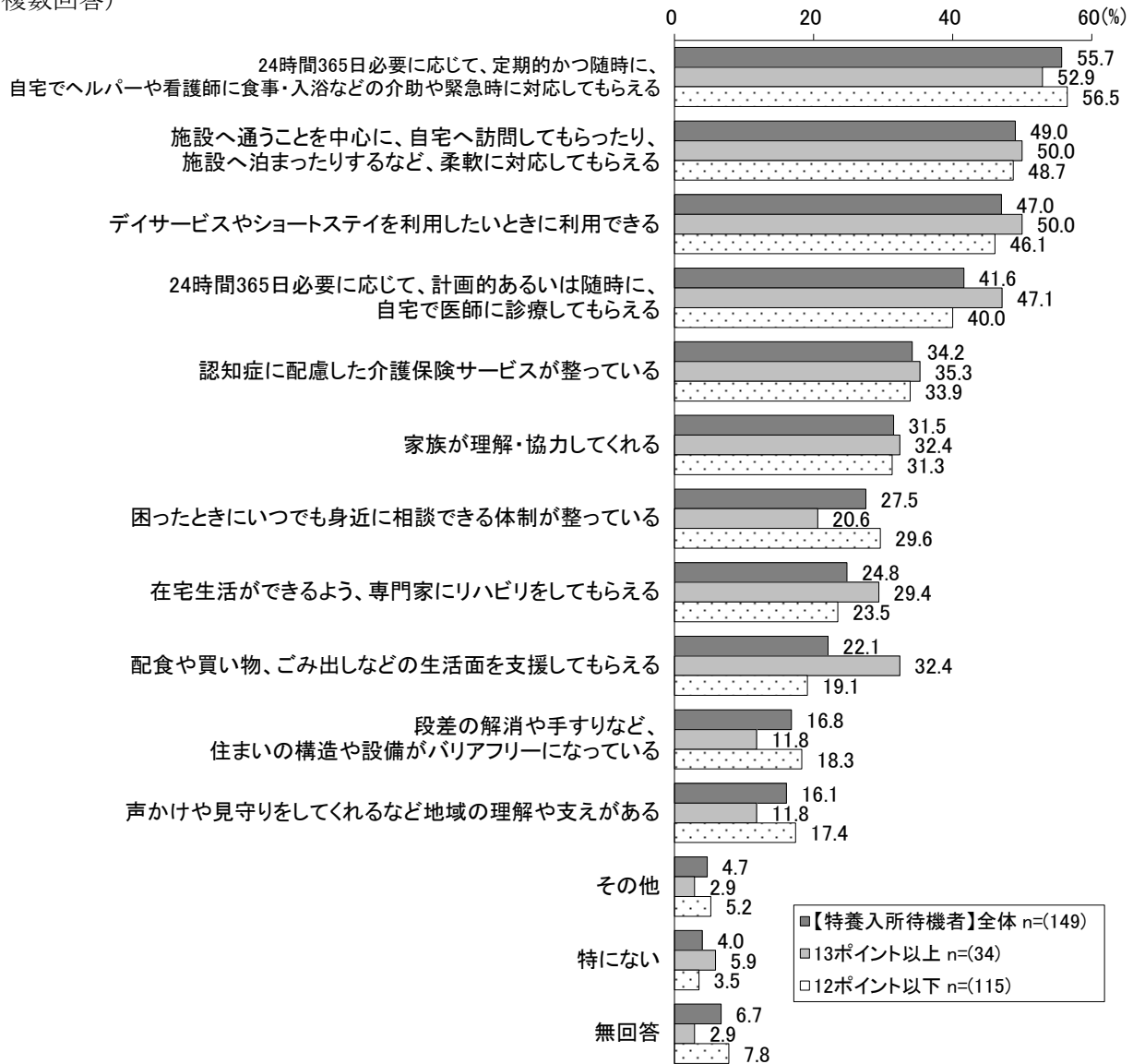
○令和元年度の調査結果と比較すると、令和4年度の調査結果は、「なるべく早く特別養護老人ホームに入所したい」が11.7ポイント低く、“当分は在宅生活を継続する”が8.3ポイント高くなっている。

| | n | 活ぜをひを続けた今の家で生 | で可生能な限りを今の家 | し老いた人ついはム特に別入養所 | 入養なるべく早く入所 | 無回答 | 継当続分は在宅生活を |
|-------|-----|---------------|-------------|-----------------|------------|------|------------|
| 令和4年度 | 311 | 7.1 | 22.2 | 18.6 | 30.5 | 21.5 | 47.9 |
| 令和元年度 | 559 | 5.2 | 17.2 | 17.2 | 42.2 | 18.2 | 39.6 |

②在宅生活を継続するために必要なこと

- “当分は在宅生活を継続する” と回答した人が在宅生活を可能にすると思うサービスは、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(55.7%) が最も高く、次いで「施設へ通うことを中心に、自宅へ訪問してもらったり、施設へ泊まったりするなど、柔軟に対応してもらえる」(49.0%)、「デイサービスやショートステイを利用したいときに利用できる」(47.0%)の順となっている。

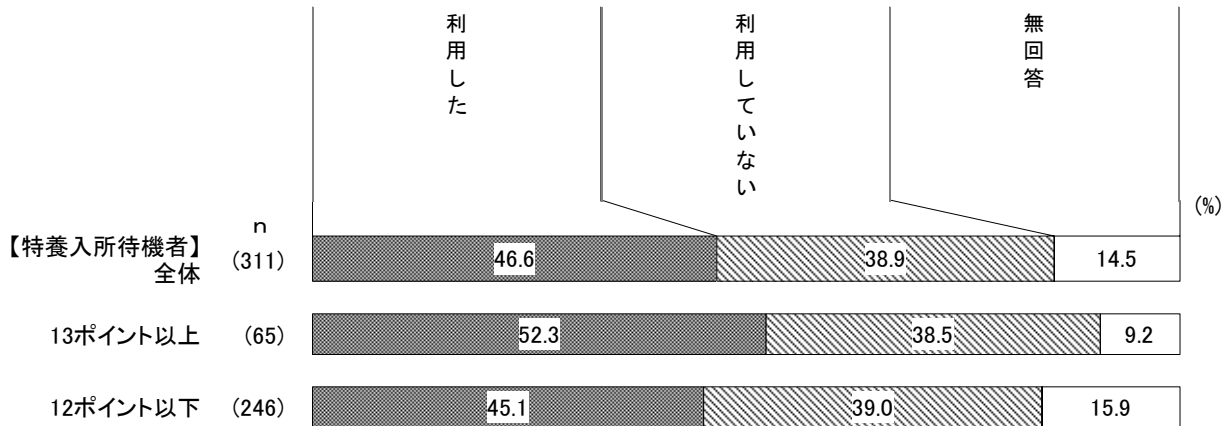
(複数回答)



(12) ショートステイの利用状況

①過去1年間のショートステイの利用状況

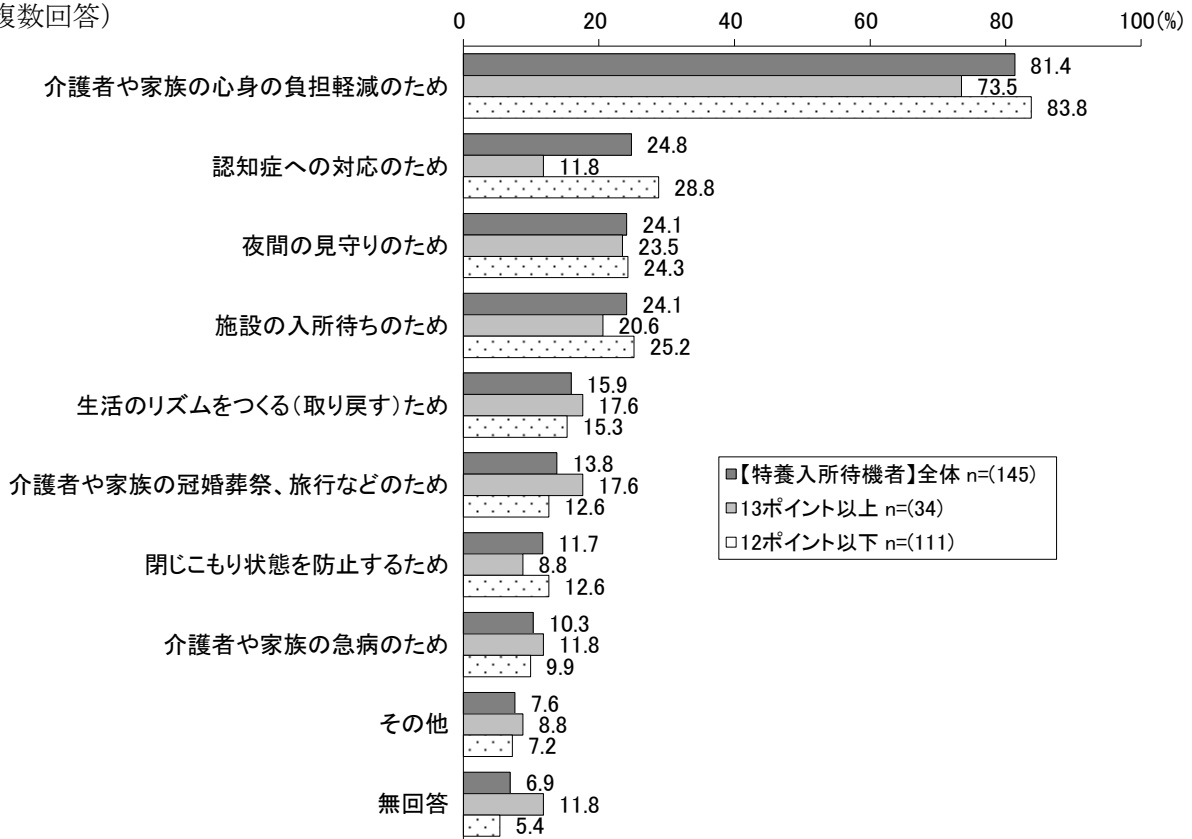
○令和3年11月から令和4年10月の過去1年間にショートステイを「利用した」は46.6%、「利用していない」は38.9%となっている。



②ショートステイの利用目的

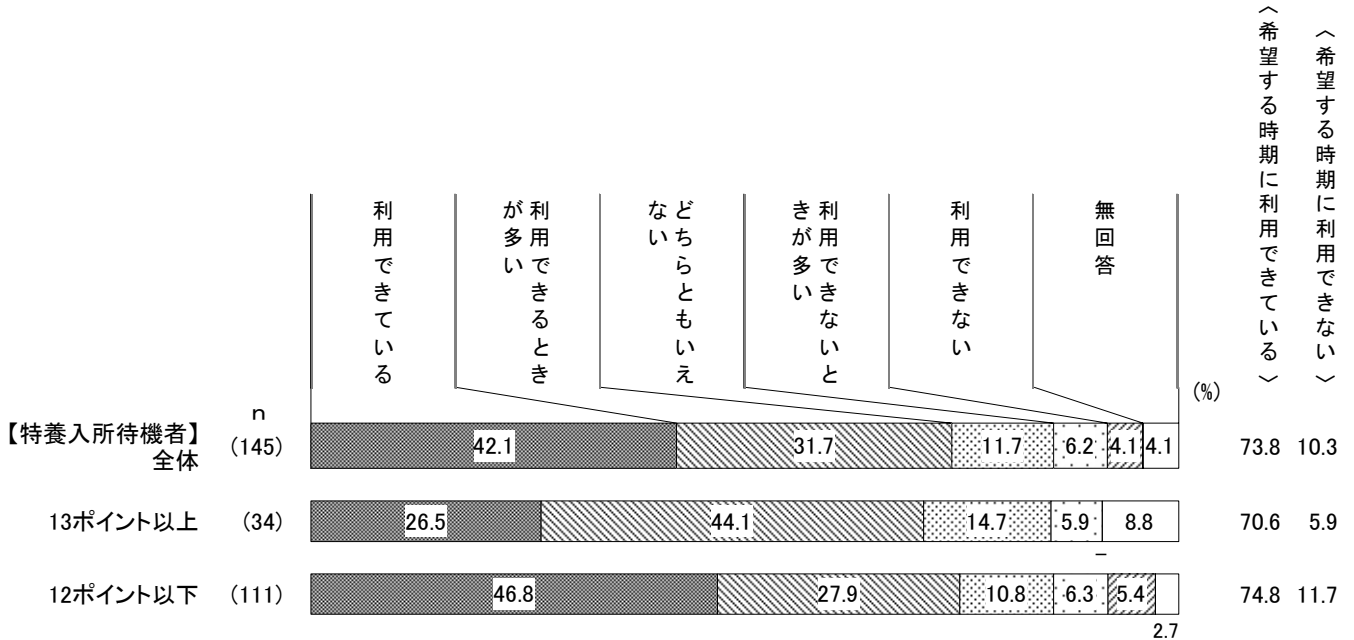
○過去1年間にショートステイを「利用した」と回答した人の利用目的は、「介護者や家族の心身の負担軽減のため」(81.4%)が最も高くなっている。

(複数回答)



③希望する時期の利用状況

○過去1年間にショートステイを「利用した」と回答した人の希望する時期の利用状況は、“利用できる”（「利用できる」と「利用できることが多い」の合計）が73.8%と、“利用できない”（「利用できない」と「利用できないときが多い」の合計）の10.3%を大きく上回っている。



④希望施設の利用状況

○過去1年間にショートステイを「利用した」と回答した人の希望施設の利用状況は、“利用できる”（「利用できる」と「利用できることが多い」の合計）が73.8%と、“利用できない”（「利用できない」と「利用できないときが多い」の合計）の6.9%を大きく上回っている。

